

委員会報告

Q1 市民

- ・理事者の報酬、職員の管理職手当は10%カットなのに議員報酬を5%カットにした理由は。

A 横沢議員

- ・塩尻市では、市長から「管理者10%カット」「特別職10%カット」そして、「議員報酬も10%カット」と発表したの、議員については、議員提案で、他市の平均3.96%を上回る5%を、報酬審議委員会を省略して決した。

削減率については、長野市は10%、松本市・須坂市・岡谷市・塩尻市の4市は5%、8市が3%、1市が1.5%である。

A 五味議長

- ・国から東北大震災補助の財源確保の目的で、報酬の10%カットに協力依頼が来た。地方公務員等は対象でなかったが、他市が3%から10%カットを実施する方向を示した。

Q2 市民

- ・勝弦地区のため池は、塩嶺トンネルの対策として作られた。年数も経ち、老朽化し、小さくても危険だ。また、そのため池から取水しているU字溝も補修が必要になって来ている。直下に住宅も有ったりして危険だ。

A 牧野議員

- ・長野県が、防水堤15m以上、貯水量10万トン以上のため池を対象に、一斉調査に入った。塩尻市では、沓沢湖・みどり湖が対象である。各々、貯水を注視したり、減水してセンサーを設置したりして、対策を打っている。1年に5箇所ずつ実施していく。

Q3 市民

- ・直下に住宅が有るところを最優先して、早く調査して市民を安心させることを、強く要望したい。

A 牧野議員

- ・執行機関と連携したい。

Q4 市民

- ・指定管理者を市に変更した理由は。

A 牧野議員

- ・10年前の市の方針で、指定管理者に委託して活性化を図ったが、来年4月に市の管理に戻すということ。

Q5 市民

- ・北小野上田と有るが、何処のことか。

A 牧野議員

- ・分からないので、後日連絡する。

【注】農村公園のことで、「北小野入田川農村公園」である。他に「牧野農村公園」「上小曾部堂平農村公園」と「塩尻市宗賀新農業構造事業自然環境施設」の4施設。

議会報告（信州Fパワープロジェクト）

Q6 市民

- ・原木の安定供給は、山から木が無くなってしまわないか。

A 中村副議長

- ・現在、長野県の間伐材の20%しか利用されておらず、平成32年までに、50%まで引き上げる計画である。

A 五味議長

- ・プロジェクトチームは、森林整備計画を50年～100年スパンで立てている。

Q7 市民

- ・御柱の時、大木を切った後に、植林して次の木を育てようとしているが、残念ながら食害で、木が育たない。そんな心配はないか。

A 中村副議長

- ・長野県の森林が伐採期を迎えていて、間伐材はこのまま朽ちさせることになっている。植林をしながら、伐採を早めたい。

Q8 市民

- ・木材価格が低迷しているが、時系列的に計画されているのか。

A 中村副議長

- ・森の経営団地化を進めている。委員会や会派で北海道下川町や岡山県真庭市を視察した。先行している成功例を参考に推進していく。

Q9 市民

- ・Fパワーの「F」は、「5F」と聞いているが、「3F」しかないが。

A 中村副議長

- ・「3F」が正しいと思う。その他の「2F」は後日調べて報告します。

【注】市Fパワープロジェクト推進室に確認したが、当初から「3F」であったとの回答。

Q10 市民

- ・70億円から100億円になったが、塩尻市負担金はどのくらいか。

A 中村副議長

- ・塩尻の支出補助金は全くない。ただし、関係する道路整備は市が負担する。

Q11 市民

- ・余熱利用は、計画当初から一緒に進めた方が、コスト的にも良いがどうなのか。

A 中村副議長

- ・製材加工・発電事業は、征矢野建材側で、余熱利用は塩尻市の側だが、今のところ全く計画されていない。

Q12 市民

- ・発電のための水について、地下水では不足するため、水道水を購入すると聞いたが、採算が合うのか。

A 中村副議長

- ・当初の計画では水冷式を計画していたが、そのような問題で空冷式にしたので、片丘浄水場の水量で充分賄える。

Q13 市民

- ・発電に使われる熱は50%程度。残りの50%が無駄にならないことも考慮して有効利用して欲しい。

A 中村副議長

- ・産・学・官のまさに「学」の部分のご意見。参考にして、良く連携していくように伝えておく。

Q14 市民

- ・余熱利用の具体的な計画は。

A 中村副議長

- ・発電・売電は征矢野建材側で、余熱利用は市が計画中である。

意見交換会

Q15 市民

- ・塩尻市の避難勧告について、降雨量の基準は。

A 牧野議員

- ・分かりませんので、後日調べてお伝えする。

【注】塩尻市は基準を設けていない。(調査表を参照)

Q16 市民

- ・災害時の連絡用トランシーバーのデジタル化は何時か。

A 西條議員

- ・消防委員会では、予算が取れ次第、配備するとの説明を受けている。

Q17 市民

- ・雨量等のデータ確認が、消防詰所で分からないと言われたが、そういったデータの活用が出来ていない。

インターネット上で、市民が、容易に情報入手できるシステムづくりができないのか。

A 西條議員

- ・消防防災課に伝える。

【注】インターネット上にどなたでも入手できるシステムがある。

Q18 市民

- ・気象庁や塩尻市内には、支所等市内10箇所に10分毎、情報が更新されるデータがある。瞬時に分かるようになっている。消防団員にも、そういった情報活用術をレクチャーすべきだ。

A 西條議員

- ・執行機関に伝える。

Q19 市民

- ・地域振興バスの勝弦北小野線が、休日・祭日に運休してしまう。利用者のことを考えて、運行できないか。

A 牧野議員

- ・費用対効果を考慮して運行している。

Q20 市民

- ・チロルが休みだから運休する、という理由は市民目線ではない。利用者の多くは、チロルの客ではなく、一般の生活の利用市民だ。

A 金子議員

- ・年間6,000～7,000万円の赤字を出して走っている。皆様のご意見を執行機関に伝えておく。

Q21 市民

- ・生活困窮者が増えてきた。市として何か手を打てないか。

A 牧野議員

- ・雇用問題として、執行機関に伝えておく。

Q22 市民

- ・横沢議員の6月定例会での発言の「みどりそば」の経過は。

A 横沢議員

- ・コンタミネーションの問題で、他の品種との隔離が必要である。その点、周りが山で囲まれた勝弦地区は適している。協力農家で、試験中。種蒔き・育成・収穫と1年のサイクルが掛かる。2～3年の期間が必要。

Q23 市民

- ・有害鳥獣被害が減少した。その一方、サルが増えた。有害鳥獣対策にと、猟銃免許を取得したら、猟友会の年会費2万円を支払うことになり、かえって重荷になった。そのため、会員が減少している。県に質問したら、「補助の要望が無いから出していない」と言われ、市から「前例が無いから出せない」と言われた。どういことか。是非、県からの補助を取って、市民に還元してほしい。また、罾の見回りもするような態勢づくりも要望したい。

Q24 市民

- ・JAのオフトークの代替を、市が考えて欲しい。JAの問題でなくそれを生活の情報源としている市民のことも、考えてほしい。(要望)

Q25 市民

- ・塩尻市のHP上で検索すれば、種々の情報が入手できるシステムにしてほしい。縦割りの情報公開ではなく、見る側の市民目線での画面にして、いつでも危険情報も含めて情報発信源になってほしい。どんな情報を誰が知っているのか、管理しているのか、網羅的に見ることができる人を育てて欲しい。(要望)